

令和4年度収支決算報告書

俳人協会群馬県支部
(令和4年1月1日～令和4年12月31日)

収入の部		
項目	決算額	備考
繰越金	323,685	前年度からの繰越金
会費	186,000	93名×2000円
収入合計	509,685	

支出の部		
項目	決算額	備考
印刷費	43,630	会報 総会資料 各種案内等
会議費	0	総会 役員会等 コロナ感染防止のため
雑費	13,650	俳句カレンダー
通信費	42,590	会報郵送 総会等案内状郵送
消耗品	1,287	宛名ラベルほか
支出合計	101,157	
収入合計-支出合計	408,528	次年度へ繰り越し

令和5年1月20日
上記のとおりご報告いたします。

群馬県支部長 原田 清正 ㊟ 会計 吉藤 淳子 ㊟

【会計監査報告】
会計帳簿及び関係書類を監査した結果、適正かつ正確に処理していると認めました。
令和5年1月20日

監査 木下 涼薫 ㊟
監査 吉澤 章子 ㊟

令和5年度紙上総会
新型コロナウイルス
感染防止対策



俳人協会
群馬県支部
☆
発行所
高崎市飯塚町737
TEL.027-361-0870

新年に入り県内では新型コロナウイルスの感染が急激に拡大しています。従いまして昨年同様集合型の総会は取り止め、会報「やまどり10号」に総会資料を掲載し報告させていただきます。

紙上総会(2月)
事業報告(事務局長・武藤洋一)
会報の発行(1月、7月)
県支部俳句大会(会報紙上)
役員会紙上(1月・10月・12月)

会計報告(会計・吉藤淳子)
別掲報告書の通り

監査報告(監査・木下涼薫 吉澤章子)
別掲報告書の通り

予算案(会計・吉藤淳子)

【収入の部】

前年度繰越・323,685円
会費・90名×2,000円＝180,000円
収入合計・503,685円

【支出の部】

通信費・50,000円
印刷費・50,000円
会議費・30,000円
雑費・30,000円
次年度繰越・343,680円
支出合計・503,680円

令和5年度
紙上俳句大会開催

令和5年度群馬県支部俳句大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙上俳句大会といたします。ご理解の上、皆様の奮ってのご参加をお願いいたします。

- 投句・ 3句(当季雑詠・未発表句)
- 締切・ 令和5年5月31日
- 投句料・ 無料
- 発表・ 会報「やまどり第11号」紙上
- 選者・ 未定
- 賞・ 上毛新聞社賞・支部長賞ほか
- 投句先・ 〒371-0056
前橋市青柳町915-2 大塚様方
俳人協会群馬県支部 あて

ハガキ裏面に俳句、氏名(ふりがな)住所、電話番号を記載の上お申し込み下さい。

※ 一般の方の投句も可。

事業計画(事務局長・武藤洋一)
総会(紙上総会)

会報の発行(2月、7月)
県支部俳句大会(会報紙上)

秋季吟行会(日時、場所未定)
支部役員会(随時)

人事(支部長・原田清正)
前年度通り

明けておめでとうございます
皆様のご健康をお祈り致します
令和5年元旦

俳人協会群馬県支部役員一同

秋の自由吟行作品集

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
ゆ巻廢月台 く機れ夜風 秋山たる野 やにるの報 み綾登縄外 どな山文わ りす鉄道遺 児雲道跡濃 あや小澄は すに秋鳥澄 鬼入るの空 子るり花 母神	月夜子の報 台を抜ける 風をせむ 道あぎ殿へ 色おのる下 仰ぎ殿を 拜殿へ下 仰殿を 確氷路の紅 朝霧線の中 吾妻線曲し 朝霧線曲し 吾妻線曲し 山頂の標を 空閑跡の振 鹿鳴け行歌 確氷閑所門 透き通ると おじき通る 秋暑し父島 紅芙蓉と日 樹下涼みの 穂孕み双水 青空の風実 閃きて色葉 日暮れり隣 分谷の村は 一歩よげん 赤中やんば 赤中やんば 砂おどる香 稲塩水湧り 秋風や昭和 障子貼る表 峡の研幾重 大の田の片 利根の研幾重											

吉藤	吉藤	真下	野口	林	矢野	荻原	本田	武藤	木下	善養寺	鈴木	北爪
淳子	青楊	章子	淳一	恵美子	稲霧	富江	巖	み江	涼薫	玲子	行正	武夫

27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14

初確パ剥鬼秋豊昨田卷涼片追虫竹野用大利木爽秋青里黒一尼峡邯残石コ空秋池延鳴鴉鬼だ先 鴨氷ン製灯あの夜の機風か分の籠萱水根の涼風芒山雲軒寺深鄴菊段高日命動鳴城やん客 の嶺パ館をか秋のめ山やげ音の草のをが幹やに葉をの湯にくの急し落面観会忌がだは 湯のスは上ねト雨ぐ晩古り蕎に朝飛し詩過に赤謡づ白足灯犇晩小稲そに照し城く聞の夕ゆ折コ口縁孫込と連 の防グは手里にツ残の風のカリ屋カのきやて蹴本注沼白音るりく彼れきらし風さて七五三墳群 湧人ラそににコ魯の雲フ埋をり実のうを散腰意大鳥波と鳥居と秋霧花小起月五三墳群 湖歌風みらり列光をエま覆ナのを溢れやどらす吟榎居と鳥居と秋霧花小起月五三墳群 に碑のぢす来車ひりつむ染け紅合はせけり 羽柞か包し日載少鳥ぐめり紅合はせけり や散けま子中和にし威朝駐車場 するらま子中和にし威朝駐車場 めをれちかやな 掃きあつめ	石井	深谷	町田	大塚	濱名	岩寄	高橋	佐藤	黛	吉井	柿沼	市村	馬上	杉山
昭子	信郎	洋子	洋二	博光	妥江	栄子	ヒナ	正登志	たくみ	あい子	一江	絹代	やよひ	

42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28

紅一天九杉秋社稷石初冬秋釣飛月天大金踏製金雨鼻岩園台山遠木少父裏香蕃何眩掌午城秋紅山小羊龍
 葉笑高か落う抱線の鴨来澄り行夜高型秋み糸秋上木清児風か赤の年祖山童麦事しの後跡風葉門鳥腸淵
 やにしじ葉らくは載のるむ翁機野し車や入場やが咲水のでら城実のののののきぬめ4のや中にくののに
 急付若るなら榛駆る湖とや釣雲の山過寄りの腐りく岩土士の狐降棲地鳴鼓花程やく時ハ心目秋の山潜
 ぐさき紅ぞ蜂名の離や庭佳つ仄棚のぎ木し赤線川山煙大砂紅がるみのき笛つ々窓みのしをを明し路む
 車れ等玉へとの寝れかのきてか田稜て細旅き辿苜草き流葉棲忠処行交高つがのご峠ン洗伏菊ヤを妙
 はし真りに四巖姿のなつ句はに飛線揺工のポリののをなれ前む治完くふ鳴く良向とののうせのン行義
 先話似ん足阿秋紅屋たはの放染び地れの終ス一花辿根林出線との成す別る裾しか朴町小滝座迎ソけ山
 に秋てごを共葉根にぶこつめ交平秘のりト万かり張橋し麓い闊壇えれ秋野老のや径のすへんばの
 行高す恙とに満晴や浅きし小てぶ線密のに歩を御り挽道へふ歩の如鴉高の老の実そ小鳥のあ館秋む
 けしるならしつ 柿間黄て六秋秋 芒箱す散 り社にぎ塞と社せ実何かし浄日稲をぞ鳥 仏りにのら
 ジくれて 紅山を友月夕あ か する をへけとぐ し にな 土 のいろ来 像 モこさ
 ヤつ つ 葉 点 逝 焼か な き 紅 り りれ 参 鯛 め 波 た 寒 る や ネ ぬ き
 ンプ つ すき ね 原葉 ず

金子 深谷 吉澤 小林 大澤 星野 矢野 須賀 佐々木 武藤 小菅 須川 唯野 星野 大谷
 笑子 征子 章子 和子 文子 なら 妙子 静子 恵子 洋一 子 良子 千代 子 孝子

57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43

鬼花人合一休小再赤目春枝銀掃ま水蜜火母白草十神老ス媪秋母何日全や確ならせあ攪分怠竜三秋枯
 のをひのにて風寒を蛤ね燦るの済じかのし娘やみ夜備エンと空らか映で冷越からまぬの心むのむ蔓
 姿摘さ指揺は旧や土飛迷吾る臭まゆさ葉看の標ち湖のフ舟り平ばもえ手ええまらぎほが大に淵味やの
 まむれにる聞友物産ぶ子子ひせしね裏取守高覚面水はさ慰和台値てをて雨どとやし強樹初か憎勞一
 ど手し止るくの首に頃にはの歩二や鴨にりる千満に澄今く壺で風上休振一に釣過木我しの冠藍蔵苦糸
 か老ふまエ枯笑のゆかな背記道人げのこの酒の淵小むもらのあのげ耕る番震船り橋に弱根雪濃す刻に
 にいるるン蘆みなるもつ中念にの夫群も日蔵大の舟山健紅園つ前ラ田少列へ並てに画し方のきためす
 裏たさやジのゆきりよてで樹おのれり々ま花地こや在葉のて米ツの女車るぶ去生家の穴浅水れるが
 妙りと赤エ枯か町渡押泣眠やフ茶目ゆ忽のゆ野塘ぎ講鴨を落こ研し草実待萬函らふの濃薬間湛葛峻る
 義秋のとるし工りしきり小イや守くと律み 燃出盛渡く葉そがフェ風むつも館ずる手り師山への工鳥
 ののんとるけ場鳥車べを鳥ス庭れ萩冬のの ゆせんるぐ掃のむやらほみ港秋赤秋ん立 花碑瓜
 ば咲ぼラ音り そり来街紅るの部実 りりりく空 秋 らさちの ま夕だ つ
 らけ ン を る 葉無風 屋 抜 け 風 の きム 蝶ん焼う
 り ベ ッ ト 緑 墓 地

原田 福田 蟻川 橋爪 酒井 吉沢 小林 堀越 永山 金子 中嶋 宮崎 弥城 北村 高嶺
 清正 昌子 玄秋 ひさ子 富子 智子 悦子 純 比沙子 禧子 孝子 夏子 節子 由美子 京子

第62回全国俳句大会

募集：2句1組（未発表作品・何組でも可）所定用紙をご利用ください。投句用紙は協会印からダウンロードできます。
 投句料：1組1000円（小為替又は現金書留）

締切：令和5年4月15日（土）当日消印有効
 送付先：〒169-8521 東京都新宿区百人町3-28-10

俳人協会「全国俳句大会」係
 電話03(3367)6621
 選者：

石井いさお・伊藤伊那男・井上弘美・今井聖・今瀬剛一・上田日差子・大串章・小川軽舟・小澤寛・榎未知子・角谷昌子・加古宗也・片山田美子・栗田やすし・古賀雪江・小島健・佐藤賀直美・嶋田麻紀・白濱一羊・鈴木しげを・染谷秀雄・谷口智行・徳田千鶴子・中坪達哉・中原道夫・仲村青彦・西村和子・西山睦・野中亮介・能村研三・暮田良雨・福永法弘・藤本美和子・松尾隆信・松岡隆子・南うみを・三村純也・村上喜代子・森田純一郎・横澤放川（50音順）
 大会：令和5年9月12日（火）
 正午開場、午後1時開会（入場無料）有楽町朝日ホール・東京都千代田区有楽町

215-1

当日句会：大会当日参加者より1句を募集（投句料無料、投句締切午後1時、未発表作品）。当日選者による選を行い、特選・入選句には賞を呈します。
 電話：03(3284)0131

有楽町マリオン1階（JR有楽町駅中央口または銀座口・地下鉄銀座駅C4出口）地下鉄有楽町駅D7a、D7b出口）
 車椅子での入場も可能。前もって俳人協会にお電話下さい。

賞：大会賞・秀逸賞・各選者の特選賞。
 ☆大会終了後応募者全員に入選作品集をお送りします。（お一人5冊まで）
 ☆応募作品の訂正・取消しには応じられません。

☆類似及び二重投句については、入選を取消すことがあります。
 ☆入賞作品は、俳人協会のホームページに掲載します。

主催 公益社団法人俳人協会
 後援 朝日新聞社

俳人協会会員以外の一般の方も投句・大会出席ができます。

※社会状況により開催の有無、収容人数等が変更することがあります。俳人協会にお問い合わせください。

四季の畔道

「虹が」。車から降りた婦人がスマホで写真を撮りながら東の空を指さす。見ると、鍋割岳の西の裾野から幽かに見える筑波山の近くまで虹がかかり、七色の縞模様はつきりと区別できるほど鮮やかに見えている。家を出て三十分近くたつのにいったい何処を見ながら歩いてきたのだろう。腰を病んでから一段と「老人歩き」が進んだよう、路面の凹凸や小石が気になり、知らぬ間に前かがみになって歩いている。そこへあの婦人の一言。「足元ばかり見ていないで、山並みや青い空を仰ぎながら胸を唄うように歩きなさい」というお告げのように思えてきた。日頃の生活や身近な自然をさりげなく詠む先輩を、うらやましく思っていたが、改めるべき点が自分自身にあったようだ。でも、「虹に見とれて躓いてころびました」と言うのも笑い話では済まないし……。（よ）

こらむ・しだりお

「志ん生が死んで江戸っ子一人減り」。毎日新聞は毎年12月31日付のコラムで、その年の主な出来事をいろはかるたにしている。1973（昭和48）年大晦日のコラムの「し」の札がこれだ。落語家の5代目古今亭志ん生（1890〜1

973）は8代目桂文楽（1892〜1971）、6代目三遊亭円生（1900〜1979）とともに「昭和の名人」と言われた。しかし、同じ斬でもやるたびに少しずつ違う。時間も長くなったり短くなったり。自分でも「どうなるかわからない」という芸だ。そこが魅力でもあったのだが。▼歌舞伎役者は俳句を好んだが、落語家は川柳を好んだ。寄席通の川柳作家、坊野寿山（ほうの・じゅざん）が師匠となって句会を開いていたからであろう。中でも志ん生は多くの名句、迷句を残した。〈干物では秋刀魚は鱈にかなわらない〉〈煮きたての秋刀魚に客が来たつらさ〉〈焼きたての秋刀魚の姿哀れなり〉。秋刀魚というお題でこれだけ詠むのは非凡である。▼並外れた酒好きでもあった。関東大震災直後、「酒はしばらく手に入らなくなるだろう」と酒屋へ飛び込み、逃げようとする主人に「売ってくれと懇願。『好きだけ持ってください』と叫んで逃げる主人の言」通り、両手に持てるだけ持ってきたという強者だ。〈フナチキで酒を飲むのは忙しい〉という句から、酒臭い息が伝わる。▼〈ふんちとアガをはくとコブがでさ〉〈フミの子が親の仇と爪を見る〉は落語家らしい。〈丸髻へ帰る女房に除夜の鐘〉。俳句をやっていたら大成していたかもしれない。今年は没後50年である。（M）